

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日: 2022年8月22日

所属学部／研究科・学科／専攻	情報コミュニケーション学部情報コミュニケーション学科
留学先国	アメリカ
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: カリフォルニア大学バークレー校 現地言語: University of California, Berkeley
留学期間	2022年5月～2022年8月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	3年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2022年8月20日
明治大学卒業予定年	2024年3月
留学先大学について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:1月下旬～5月下旬 2学期:5月下旬～8月上旬 3学期:8月下旬～12月中旬 4学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	45,057人
創立年	1868年

留学費用項目	現地通貨 (USD)	円	備考
授業料	7,183USD	983,999円	
宿舍費	6,225USD	852,763円	120食の meal plan 付けです。
食費	100USD	13,699円	外食だけの費用です。
図書費	16USD	2,192円	あるテキストは図書館になかったですので、買わなければいけません。普通に図書館を利用してテキストを借りることができるはずですが。
学用品費	0	0円	自分の iPad と PC しか使わなかったのです。
携帯・インターネット費	75USD	10,274円	三ヶ月の総費用です。
現地交通費	40USD	5,480円	オンキャンパスの寮に住んでいましたので、毎日歩いて通学しました。そして、大学からバスを無料で乗れるフリーパカードがもらえるので、地下鉄を乗るためにカードをチャージするしかなかったのです。(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	300USD	41,097円	留学期間には他のところに旅行に行ったことがなかったのです。
被服費	100USD	13,699円	バークレーは想像より寒かったので服を買った。
医療費	0	0円	
保険費	218USD	30,660円	形態: 明治大学の留学保険; 日本円で支払いました。
渡航旅費	1065USD	149,309円	日本円で支払いました。
ビザ申請費	360USD	49,316円	ビザ申請費と SEVIS 費の合計です。
雑費	0	0円	
その他	0	0円	
その他	0	0円	
合計	15,682USD	2,142,154円	

渡航関連

渡航経路
往路 出発地:東京 目的地:ロサンゼルス 経由地: 復路 出発地:ニューヨーク 目的地:香港 経由地:
渡航費用
①往復チケットを購入した場合 航空会社: _____ 料金: _____ ②片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:ZIPAIR 料金:44,500 円 復路 航空会社:Cathay Pacific 料金:104,809 円 ∴合計:149,309 円
航空券購入方法
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名: _____) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:Trip.com) <input type="checkbox"/> その他(_____)
滞在形態関連
1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:International House) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2)部屋の形態
<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 _____)
3)共有部分
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> キッチン(<input type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)
4)住居を探した方法:
同じ大学で交換留学をした先輩と話して、International House を薦めていただきました。そして、International House の HP を見て調べて、この寮を申し込むことを決めました。そして、カリフォルニア大学バークレー校の学生寮は専用の Web ページがありますので、そちらにも情報を収集することができます。
5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)
International House は元々留学生向けの寮ですから、いろいろな国から来た学生と知り合いになるチャンスが多いでした。そして、毎週コーヒータイムといった活動を行います。そのように、他の人と話したり、友達を作ったりすることが簡単だと思います。International House では、いろいろな友達を作ってきました。そして、自分の食堂や図書館を持っていますので、生活はとても便利でした。International House の建物は古いなので、見た目は綺麗だけど、部屋は狭かったと思います。ある友達の相部屋に行ったことがあります。その二人の相部屋は自分の個室と同じサイズでした。もし、個人のスペースが欲しければ、個室に申し込んだ方がいいだと思います。 なお、そもそも、自分はコロナの濃厚接触者となることを避けたいでしたから、個室を申し込みました。ただし、International House は異なった国籍の人をルームメイトにするので、相部屋に住んだら、ルームメイトと親しくなり、友達を作ることが一層易くなりました。個室だったらそのような機会がなかったの、残念だと思います。そのため、個人的には、International House で住んだら相部屋をおすすめします。
現地情報
1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院, 学内の診療所)
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(治療を受けた場所: _____)
2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。(例:留学先大学の相談窓口, 現地の友人等)
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(問題の内容や相談した人等: _____)
3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?
カリフォルニア大学バークレー校は、犯罪事件が起きたら、学生のメールアドレスに「Berkeley Warn Me」というメールを送ります。そのようなメールが届いたら、言及した地域を避けるよう行動します。そして、夜になったら、友達と数人一緒に行動する方がいいだと思います。
4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)
寮のインターネット接続は時々不安定です。そのため、現地の携帯 SIM カードを購入し、モバイルデータが使えることがおすすめです。

5)現地で資金調達はどのように行いましたか？(例:現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)
現地のATMは普通にVisaカードから現金をおろすことができるので、普通に日本の口座や中国の口座から現金をおろしました。その上、クレジットカードも併用していました。ただし、アメリカにはクレジットカードが多用なので、クレジットカードを持てばいいです。
6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。
一般的な物があると思います。サンフランシスコでJapan Townもありますが、そちらに日本のやつが普通に入手できると思います。
7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)
渡航前、大学のポータルでクレジットカードで支払いました。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
11 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 11 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() ・履修の制限はありましたか？	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Examining U.S. Cultures in Time	時間軸で見る米国文化
科目設置学部・研究科	American Studies
履修期間	Summer Session A
単位数	4.0
本学での単位認定状況	4 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	対面講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に180分が3回
担当教授	Alexander B. Craghead
授業内容	広告の視点から、戦後のアメリカ文化を考える。
試験・課題など	ミッドターム試験がなかった。期末試験があり、難しかった。毎週、広告の作成に関する課題が一つある。期末レポートはクリエイティブな課題であり、自分で広告を作ってみることだった。ただし、期末レポートは二週間ぐらいの時間があり、ゆっくり書いてもいいのである。
感想を自由記入	アメリカンスタディズの授業であり、自らはクラスに唯一な英語が母国語ではない人であったので、授業に参加するのは少し辛かったと思う。そして、毎回の授業には、内容が多すぎて、先生はパワーポイントをアップロードしなかった。そのため、毎回はノートを一生懸命取ることが大変であった。ただし、授業でのディスカッションセッションには他のクラスメートと話し、新たな視点を獲得ことができ、いろいろなクリティカルシンキングができた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Language, Culture, and the Media		言語・文化・メディア	
科目設置学部・研究科	College Writing Programs		
履修期間	Summer Session D		
単位数	3.0		
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	対面講義(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に 150 分が 2 回		
担当教授	Shalle Leeming		
授業内容	メディアの視点から、英語力の向上に勤める授業である。メディアに関するコンセプトを紹介した上で、コミュニケーションのことについて勉強する。		
試験・課題など	試験がなかったのである。ただし、英語の300文字以上の Media Journal が四つある。そのうえ、授業内容に関する小テストが何個ある。調査を行った上で、結果をプレゼンで発表することも2回ある。期末プレゼンした後、5ページぐらいのレポートを書く必要がある。		
感想を自由記入	紹介したメディアに関するコンセプトは非常に基礎的なことである。授業内容が理解しやすかったが、毎回課題の量が多すぎて重すぎたと思う。授業中には、ディスカッションをする時間も長かったのである。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Introduction to Modern Chinese Literature and Culture		中国現代文学・文化概論	
科目設置学部・研究科	East Asia Languages and Culture		
履修期間	Summer Session D		
単位数	4.0		
本学での単位認定状況	4 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	対面講義(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に 120 分が 4 回		
担当教授	Zijing Fan		
授業内容	中国の文化や歴史などのバックグラウンドを紹介してもらった上で、元王朝から今までの現代中国文学を読んで考察する。		
試験・課題など	ミッドターム試験とファイナル試験の両方ともある。ミッドタームの方がより難しかった。そして、期末には、4~5ページの期末レポートもある。		
感想を自由記入	自分は中国出身なので、文化や歴史の紹介の部分は非常に基礎的な知識、常識に近いことであると思う。ただし、文学を読んで考えた上で、クラスメートとディスカッションをすることは非常に良かったと思う。		

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

(例:留学中の就職活動へ向けた準備, 帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い, 留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備, 試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備, 試験勉強, 留学中, 留学後, 特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例:語学試験の勉強, 選考, 出願, ビザ申請・取得, 航空券購入, 予防接種, 滞在先の確保, 留学中の中間試験, 期末試験, その他イベント等

留学開始年の前年	1月～3月	留学に行くことを決めること
	4月～7月	留学に関する情報を集めること
	8月～9月	志望する留学先を決めること; 語学試験の勉強
	10月～12月	語学試験の勉強; 語学試験成績の取得; 学内選考への出願
留学開始年	1月～3月	学生ビザの申請と取得; ワクチンの接種; 寮の申請; 履修登録
	4月～7月	学生ビザ取得; 滞在先の確保; 航空券購入; 渡航
	8月～9月	留学; 帰国
	10月～12月	
留学/帰国年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、留学を志す後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。

もともと、カリフォルニア大学バークレー校を選んだ理由は、アメリカの大学を体験した上で、自分は明治大学から卒業したら、アメリカの大学院に進学することに適するかどうかということを考察したいことであった。ただし、実際にバークレーには、学術的なことに限らず、世界各地からの友達をできたり、サンフランシスコでツアーをしたりしており、想像以上のいろいろなことを得た。

学術の側について言えば、アメリカの大学における講義は、日本の大学における講義と異なったことに気づいた。日本の大学における講義は、一般的に、先生に講義を行ってもらい、時々質問をするように行っているわけである。それに比べて、アメリカの講義は、ゼミナールに近い形式で行っている。一般的な授業でも、ディスカッションのセッションが毎回ある。学生同士と話し合うチャンスが多かったのである。授業中、自らの考えや視点を話したり、他人の視点についても知ったりしており、独特で新たな発想が出ることを目指す。例えば、履修したアメリカン・スタディズの授業には、毎回、ほぼ1時間のワークショップがある。その授業は主に広告の視点から戦後のアメリカ文化を考えることを主題としたので、ワークショップはグループを分け、その時代の雑誌や新聞を用い、それらに出た広告を見て考察していた。グループ内に、同じ広告に対しては異なった意見がいろいろ出ており、激しい議論を行い、授業で教えられたコンセプトに対して、より深い理解が得られるようになったと思う。他の授業にも、そうである。そして、アメリカの授業では、ディスカッションでの活躍度が成績評価における大きな割合を占める。良い評価を得るために、授業での発言やディスカッションへの参加が必要である。自らは文系の授業しか履修していなかったが、文系の授業には正解が存在せず、独特な発想が重視される。そのため、学生たちは自らが誤ったことを心配せずに、気軽にディスカッションによく参加した。

バークレーでの留学のおかげで、異文化コミュニケーションを実際に体験し、それについてより全面的に考えられるようになった。ヨーロッパ出身の人と実際に知り合うのは初めてである。そのような人とコミュニケーションをする場合、カルチャーギャップに面することが多かったのである。例えば、6時に一緒にご飯に行くことを約束した場合、フランス人は6時10分ぐらい着くことが普遍的である一方で、アジア人である私は5時50分ぐらい着くわけである。そして、高校の時の話をしている場合、ヨーロッパ人は普通に高校で第二外国語を履修したことについて知るようになった。そして、高校や大学での成績評価のシステムも異なったことについて知るようになった。想像より数多くのわからないところが出てきた。そのように、一般的な話し合う場合でも、いろいろな質問をしながら、話してきた。全く知らない文化背景を持っている人と話し合い、異文化コミュニケーションの実感があつた。異なった文化を尊ぶのは簡単であると思いつつも、実行すれば、いろいろな障害があることがわかった。文化によって、タブーや注意すべきことが異なった。ある文化について全く知らない場合、相手を犯すことが時々ある。その場合、相手は何も話していなければ、犯したことも全く気づいていない恐れがある。そうみれば、異文化コミュニケーションが順調に進むことができる場合、コミュニケーションの両方ともコミュニケーションをする意欲を持たなければならないのではないかと考える。そのような経験に基づいて、自らの専攻としての異文化コミュニケーションをより多角的な視点から考えたり、勉強したりすることができるのではないだろうか。そのうえ、大学に卒業したら、異なった文化背景を持つ人々とコミュニケーションをとるきっかけが多い職業に勤めたいと思う。それで、外資系の会社に就職した方がいいのではないかと考えている。

後輩学生はバークレーで留学したければ、International House で住むことは絶対にお勧めしたいと思う。寮費が確かに少し高かったが、International House というコミュニティは良かったのである。毎週間 Coffee Hour があり、他人と話し合いやすい環境が作り出された。そのように、世界各地の友達ができ、留学生活が満喫できる。そして、勉強は確かに重要であるが、現地の生活を体験することも大切であると思う。もし、毎日毎日、部屋や図書館で勉強しかなければ、交換留学の意義がないのではないか。帰国した上で、現地で勉強に専念する友達と話したことがある。その友達に、勉強だけしてき、現地の生活を体験したことがないのは非常に残念であると思うということを伝えてもらった。